

小児用肺炎球菌ワクチン接種のお知らせ

接種日：毎週水曜 14:00~15:00

予約：小児科外来

料金：1回 9,450円

肺炎球菌は、多くの子どもの鼻やのどにいる身近な菌です。普段はおとなしくしていますが、体力や抵抗力が落ちた時などに、いつもは菌がいないところに入り込んで、いろいろな病気（感染症）を引き起こします。

肺炎球菌が起こす病気

細菌性髄膜炎

脳や脊髄をおおっている髄膜に菌が侵入して炎症を起こす。日本では、毎年約200人の子どもが肺炎球菌による髄膜炎にかかり、うち1/3くらいが命を奪われたり、重い障害が残ったりしています。

肺炎

肺炎球菌という名の通り、肺炎の原因になる。症状が重く、入院が必要になりこともある。

菌血症

血液の中に菌が入り込むこと。放っておくと、血液中の菌がいろいろな臓器にうつり、髄膜炎など重い病気を引き起こす心配がある。

中耳炎

カゼなどで抵抗力が落ちた時に、耳の奥に感染し、炎症を起こす。肺炎球菌が原因の中耳炎は、何度も繰り返し、治りにくいことがある。

このほかにも、副鼻腔炎、髄膜炎、関節炎なども肺炎球菌によって起こります。

予防できる病気

肺炎球菌による髄膜炎や菌血症、菌血症を伴う肺炎など。

接種する時期

生後2ヶ月以上から9歳以下まで接種できます。

肺炎球菌による髄膜炎は約半数が0歳代でかかり、それ以降は年齢とともに少なくなります。5歳くらいまでは危険年齢です（5歳を過ぎての発症もあります）。2ヶ月になったらなるべく早く接種しましょう。

効果

2000年から定期接種にしているアメリカでは、ワクチンで予防できる肺炎球菌による重い感染症が98%減りました。現在、世界の約100ヶ国で接種され、うち43ヶ国では定期接種されています。

副反応

ワクチンを接種した後に、発熱や接種部分の腫れなどの副反応が起こる頻度は、ほかのワクチンと同じ程度です。10年前に発売されて以来、世界中の子どもたちに接種されています。

小児用肺炎球菌ワクチンの接種スケジュール

接種回数は、肺炎球菌ワクチンをはじめて接種する月齢によって異なります。

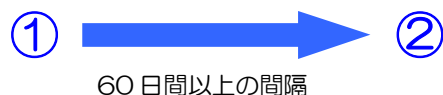
生後2~6か月・・・4回接種



生後7~11か月・・・3回接種



1歳・・・2回接種



2~9歳・・・1回接種

